

「学力向上ポートフォリオ(小学校版)」

学力向上目標

- 基礎・基本の確実な定着を図る。
 - ・四則計算を確実にできるようにする。(単元テストで正答率90%以上)
 - ・発達段階に応じた漢字の習得。(単元テストで正答率90%以上)
- 思考力・判断力・表現力を高める。
 - ・算数の単元テスト「思考力・判断力・表現力」をみる問題で正答率80%以上にする。
- 主体的に学習に取り組む態度を育てる。
 - ・さいたま市学習状況調査における「算数は好きですか。」の肯定的な回答の割合を令和2年度の値より3p t 向上させた値にする。

具体的な手立て

- ①ICTを基盤とした、「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」を実践する。
- ②「適応問題」、「ふりかえり」の時間を十分に設定し、本時で学習したことの定着を図る時間を充実させる。
- ③校内指導体制を整備し、個に応じた支援、少人数指導を行う。
- ④進んで学習に取り組めるように、算数・漢字プリント等を活用する。
- ⑤ドリルパークを活用し、いつでも児童自身で学習の定着度を確認できるようにする。(個別最適な学びにつなげる)
- ⑥考えをしっかりと伝え合うために、協働・練り上げの場で伝えるためのねらいを明確に与え、経験を積み重ねる。(協働的な学び)
- ⑦ユニバーサルデザインの考えを取り入れた教室環境を整える。

結果

- ・四則計算の単元テストでは92%、発達段階に応じた漢字単元テストでは90%であった。
- ・算数の単元テスト「思考力・判断力・表現力」をみる問題での正答率は81%であった。
- ・さいたま市学習状況調査における「算数は好きですか。」の肯定的な回答の割合は令和2年度の値より3p t 低下した。

今年度の振り返り・次年度に向けて

計算、漢字、「思考力・判断力・表現力」は成果指標を達成することができた。適応問題や振り返りの時間を十分に設定し、本時で学習したことの定着を図る時間を確保したことが効果的にはたらいと考える。次年度は業前学習の「基礎基本の時間」も活用し、基礎学力の定着を図っていく。

協働・練り上げの場で、伝え合うためのねらいを明確に与え、伝え合いの経験を積み重ねることができた。次年度も継続して行い、児童が自分の考えにさらに自信をもち、根拠をもって伝え合いができるようにしていく。また、「算数」の楽しさを味わわせ、「深い学び」の実現を図るために、今後も指導法の工夫改善を行っていく。